

## 国立大学法人東京海洋大学長の業務執行状況の確認（中間評価）について

国立大学法人東京海洋大学学長選考・監察会議規則（平成 16 年海洋大規第 6 号）に基づき、下記のとおり国立大学法人東京海洋大学長の業務執行状況を確認し、中間評価を行いましたので公表します。

令和 6 年 3 月 11 日  
国立大学法人東京海洋大学  
学長選考・監察会議  
議長 荻上 紘一

### 記

1. 学長氏名 井関 俊夫

2. 評価対象期間 令和 3 年 4 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日

3. 評価結果

学長の業務執行は、期待する程度を上回っており、適切に遂行されていると判断する。

4. 確認方法

学長選考・監察会議は、「国立大学法人東京海洋大学長の業務執行状況の確認について」（令和 5 年 6 月 26 日 国立大学法人東京海洋大学学長選考・監察会議決定）を踏まえ、業務執行状況に関する資料等を参考とした上で、直接学長から説明を受け、業務執行状況の確認を行った。

5. 確認内容

学長選考・監察会議による主な確認内容は、以下のとおりである。

#### ○第 4 期中期目標の達成に向けた業務執行状況及び成果の確認

海洋産業 AI プロフェッショナル育成卓越大学院プログラムにおけるコンソーシアムの拡充や海洋データベースカタログサイトの構築、創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクトによる博士後期課程学生への経済支援及びキャリアパス支援、カリキュラム改革（4 学期制への移行）、OQEANOUS-Plus プログラム等によるグローバル人材の育成、アントレプレナーシップ教育、海の研究戦略マネジメント機構の創設や新領域・中核研究創生事業（ミッション実現戦略経費）による研究力の強化、大学発ベンチャー制度及

び URA 制度の新設、経営企画室の経営戦略室への改組及び機能強化、ガバナンス体制の強化（学長補佐の配置、理事・副学長の適切な評価の実施）、国際混住寮の整備を含む土地活用事業等、各種取組みの実施状況及びその成果について確認した。

○ビジョン 2027 及びビジョン 2040 への取組みの状況

上述の第 4 期中期目標達成に向けた取組みに加え、全専攻横断的な学位プログラム制の検討状況を確認した。

○所信表明等を踏まえた取組みの状況

所信表明で掲げているステークホルダーに関するコンプライアンスへの取組み、教職員の処遇評価の改革、採用人事・昇任人事の実施状況について確認した。

○求められる学長像を体現できているか

「国立大学法人東京海洋大学に求められる学長像」に掲げた 5 項目について確認した。

## 6. 確認結果

○第 4 期中期目標の達成に向けた業務執行状況及び成果の確認

中期目標達成に向けて、学長就任後、3 年弱の期間において多くの組織やシステムの構築がなされ、目標の達成に向け、順調に進捗している。なお、中期目標達成に向けて、カリキュラム改革の推進は必要不可欠であり、導入は評価に値する。また、理事、副学長及び新たに配置した学長補佐について、その求められる役割を十分に果たしているか適切に評価することが必要である。

○ビジョン 2027 及びビジョン 2040 への取組みの状況

横断的な学位プログラム制の検討に着手するとともに、国際化に向けての国際混住寮の整備、研究力強化のための URA 制度の新設、学長補佐の配置等による管理運営体制の強化等に努めている。ビジョン 2040 については、第 4 期中期目標の達成に向けた取組みで重複している部分もあるが、ビジョン 2027 を早急に見直し、その実現に向けて積極的に取り組んでいることは評価できる。これまでに整備された制度等が、学内に周知され、具体的な取組みとして実効性を高めていくことを期待する。

○所信表明等を踏まえた取組みの状況

「所信表明」や「意見聴取」で述べられた内容について、「ステークホルダーに関するコンプライアンス」、「処遇評価の改革」、「解決したい問題（採用人事、昇任人事）」など多くの取組みが実施されている。成果については、PDCA サイクルを回して、新たに生まれた問題の解決を図り、ステークホルダーの信頼を得て、計画達成の実現

を図ることが重要である。

○求められる学長像を体現できているか

「国立大学法人東京海洋大学に求められる学長像」に掲げられている 5 項目のうち、1~4 については数多くの取組みに着手し強力に推進しているが、5 については構成員とのコミュニケーション不足を指摘する意見もあった。このため、特に、カリキュラム改革のような大学における非常に大きな改革を推進するに当たっては、正式な会議体における議論のみならず、教職員とのきめ細かなコミュニケーションが図られることが望ましい。

7. 総合コメント

中期目標等に掲げられている全ての項目をロードマップに基づいて着実に遂行し、特に非常に大きな目標の実現に向けて意欲的に取組み、強力なリーダーシップを発揮して推進している点が高く評価される。しかしながら、よりスムーズに目標を実現するためには、業務を推進する過程において教職員とのきめ細かなコミュニケーションが求められる。

8. 付帯意見

- 大きく難しいビジョンに向けて着々と進めていく姿、また内容には敬意を表したい。
- 研究強化のための海の研究戦略マネジメント機構（MS-Square）の設置や業務運営の改善のための学長補佐配置等、着手した業務改善が実働するように期待する。
- アントレプレナーシップ育成や海洋産業 AI プロフェッショナル育成卓越大学院プログラムについては、取組みが強化されることを期待する。
- すべての計画を同時に進めようとして力が分散するよりも、優先順位に従って重要なテーマに力を集中してより早く成功させることでステークホルダーの信頼を得られ、結果として計画全体の進捗が早まり、より多くの成果が得られると考える。

以上